

守る会ルーム

みずほの家に通いはじめて、5年目をむかえました。職員さんや他の利用者さん達に支えてもらい、毎日、元気に通うことができています。

守る会の役員会の席で、理事長が「介護の仕事に、人が集まらない。だからと言って、質の低い職員を入れるわけにはいかない」とおっしゃっていました。

4月から働き方改革が始まり、職員さん達がどれだけのゆとりが持てるのか計り知れませんが、これからも利用者に寄り添った支援をよろしくお願いします。

みずほの家 保護者 松永 有希恵

ボランティアルーム

【ボランティア関係】(順不同)

- ・ハーモニカ演奏シルバー大学校南校OBこすもす様
- ・ますます元気サポーター にっこりチーム、ひまわりチーム、OKK5チーム様
- ・シルバー大学校同窓会栃木市大平支部の皆様(奉仕作業)
- ・よさこい 五家英子とみんなで踊ろう会様
- ・ヘアサロン セゾン様 ・オカリナ演奏 アノン様
- ・NPO法人オアシス様 ・傾聴ボランティア ピーちゃん様
- ・木野内 昭、光子様 ・尺八演奏ボランティア 吹竹会様
- ・栃木腹話術研究会様 ・和田商店様 ・コロポックル様
- ・石塚雅子様 ・代田ゆかり様 ・各施設事業所の保護者の皆様

【寄付】(順不同)

- ・Abakat(アバカット)様 ・新村庸子様 ・信田燐念様
- ・高久祐一様 ・岩崎俊雄様 ・カーブスとちぎおおひら店様
- ・古河電気工業労働組合日光支部様 ・古河あこのころ会様
- ・すぎのこ会を守る会様



お知らせ

平成31年3月29日に理事会を執り行いました。
高久 祐一 理事におかれましては、
平成31年3月1日付けにて

“瑞宝双光章(教育功労)”
を受賞されました。

おめでとうございます。



すぎのこだより

第70号



目次

- ②・③・④・⑤【特集】各事業所の抱負
- ⑤【利用者ルーム】利用者さん紹介
- ⑥【本部ルーム】「平成から令和へ～新たな門出～」
- 【職員ルーム】研修会報告
- ⑦【職員ルーム】法人職員研修会&懇親会
表彰者紹介、職員リレー、駅伝大会
- ⑧【守る会ルーム】
- 【ボランティアルーム】
- 【お知らせ】

【社会福祉法人すぎのこ会】

法人ホームページ

<http://suginokokai.or.jp>

(スマホ版)

<http://suginokokai.or.jp/sp>



令和元年度 各事業所の抱負

もくせい

『開設20周年 感謝の心と笑顔のために』

平成11年4月、法人の3箇所目の福祉施設として開設した「もくせいの里」は、今年度で20周年を迎えました。開設当時は、社会福祉基礎構造改革の真ただ中、翌年の介護保険制度、4年後の支援費制度、7年後の障害者自立支援法の施行等々、制度や法律が変わる中、幾度かの変革を経ながら、その時々求められる福祉サービスに取り組んできたと思っております。今日まで多くの方々に出会い、多くの利用者様にご利用いただき、相談・支援をさせていただきました。

ご支援・ご協力をいただきました皆様に改めて感謝申し上げます。働く仲間は、大きな家族のようで、20年の間に「もくせいの里」で知り合い結婚した夫婦が11組ありました。職員が生き活きと働き、職員の幸せと成長が実感できるそんな施設でありたいと思います。子育て奮闘中の若いパパ・ママ職員も多くなりました。利用者様とご家族様と職員の笑顔を生み出せるように努力してまいります。

20周年の記念事業を計画しドカンと実施したいと思っております。

施設長 諸岡 泰

竣工当時のもくせいの里



大切な人のイラスト入り
スタッフTシャツ

包括支援事業所すぎのこ

すぎのこの相談支援事業、居宅介護支援事業及びホームヘルプサービスの拠点となる「包括支援事業所すぎのこ」が開設し、はや一年が経ちました。今年度は新たなメンバーも加わり、更なる発展の一年となるようサービスの質、専門性の向上に取り組んでまいります。

小さなお子さんから高齢者の方まで、その人らしく、生きがいを持った豊かな生活を地域で送ることができるよう、その人に寄り添い、一緒に考え一緒に歩む、そんな相談支援やケアマネジメント、ホームヘルプが提供できればと考えております。

さらに、そのような関わりをとおして、すぎのこが目指す「地域共生社会」が実現できるよう、職員全員一つのチームとなって全力で取り組んでまいります。

何か気になることがありましたら、どんなことでもぜひお気軽にご相談ください。

所長 青木 直人



ひのきの杜共生

新年度がスタートしました。新元号「令和」の響きに負けないう心を寄せ合い、協力し合い“共に生きる”施設づくりを目指します。昨年15周年を迎え、これまで大切な方達との別れと、出会いの中からたくさんの方々に教壇いただきました。この経験を活かし、個性豊かな利用者さんと共に、職員も一緒に成長できるよう努力してまいります。

4月に2名の新人職員を迎え、新たな風も吹き込みました。共生の目標は、一人ひとりの生活を支えるための『居心地の良い空間づくり』です。チーム力を高め共生らしさをアピールし、皆さんの要望にお応えしていきます。どうぞよろしくお願いいたします。

施設長 猿山 幸恵



平成31年度 すぎのこ会 法人職員研修会&懇親会

【合同研修会】



表彰者

全国身体障害者
施設協議会 会長表彰



ひのきの杜
青山幸子



ひのきの杜
池沢アエ子



ひのきの杜
島野宮子



現けやきの家
軽部慎吾



現ひまわり
渡辺美智子



はまなす開設時に看護師として配属され、いつの間にか20年が過ぎていました。

職員、保護者、利用者さんの想いに引き込まれ、ここまで歩んでこれました。

現在はひのきの杜通所部で利用者さんの笑顔を楽しみに毎日を送っています。

これからもこの居心地の良い場所を守っていきたいと思います。

ひのきの杜 飯島 真弓

職員リレー



みずほの家所長
落合 恭子

「すぎのこ会は夢の
宝飾箱や〜〜〜！」

期待と夢が膨らみます！！

30 数年前の事務員を皮切りに、身障利用者への入浴介護、通所利用者へのマイクロボスの運転手、学童さんとは一緒に歌も歌いました。そして今、ちよっ蔵の女将として焼きそばを焼き、弁当作りに勤しむ日々。また、久方ぶりの友人に「4カ所の施設・事業所を立ち上げた」と近況報告したところ「落合さんは大工になったんだ！」と仰天されました。（大工は冗談ですが、）こんなに数多くの役割を演ずることができ光栄です。これからも何が待ち受けているのやら？期待と夢が膨らみます！！

第44回

栃木市岩舟駅伝競走大会

すぎのこ会RCは今年も熱い想いを繋ぎました！走ることのプレッシャーは爽快感に変わり、皆さんと繋がっていくことの楽しさを感じました。想いの糧は、「地域」そして「未来」を繋ぐ気がします。言い過ぎかな(照)。これからも応援よろしくお願い致します☆



本部ルーム

『平成から令和へ ～ 新たな門出 ～』



《 すぎのこ会理事長 岩崎 俊雄 》

平成最後となる理事会を3月29日に開催し、平成31年度（令和元年度）事業計画及び当初予算を原案どおりご承認いただきました。併せて、愛晃の杜所長として佐々木敬之を任命した専決処分及び家庭の都合で退職することとなったけやきの家所長石塚康義の後任に、ひのきの杜次長の軽部慎吾を選任する件も議決されました。石塚氏には、すぎのこ学園時代から大変お世話になりましたが、退職後も、引き続き愛晃の杜の準職員としてお手伝い願えることになりました。

さて、福祉は人なり、と言われますが、人材の確保が大きな社会問題となっています。勿論、福祉の分野に限らないわけですが、福祉の分野の人材確保は大変厳しさを増してきています。特に、虐待問題が大きく報じられている昨今、国を挙げて専門家の確保に積極的に取り組むことになり、その結果として、福祉人材の養成、確保がより深刻となることも心配されます。

本会においても例年になく厳しい状況下にありましたが、多くの新たな職員を迎え、4月1日に辞令交付式を行いました。その折にも申し上げたところですが、我が国においては少子高齢化が一段と進む中であって「我が事、丸ごと、地域共生社会」を創ることが大きな課題となっています。課題解決に当たっては、これまでの先人の実践を継承することは勿論のことですが、新しい福祉のあり方を学んできた新人職員に期待するところも大であります。「他人事、丸投げ、地域崩壊社会」とならないよう、職員が一丸となってトータルサポートシステムの構築に向けた取り組みを継続しなければならないと考えています。

同時に、「心のバリアフリー」にも積極的に加担していきたいと考えています。昨年度、文科省が主催した「心のバリアフリーノート」作成検討会の構成員の一員として検討を重ね、この3月に報告書を取りまとめました。報告書は、小学校から高等学校に至るまでの、心のバリアフリーに関する考え方や参考資料を取りまとめたもので、今年度から使用が開始されることになっています。心のバリアフリーは教育的な側面からのアプローチが決め手である、という私の持論が日の目を見たところと実感しているところです。

元号が「平成」から「令和」に改元される記念すべき年度に当たり、すぎのこ会設立の想いを繋ぐため、なお一層努力する所存でありますので、皆様のご理解とご支援、ご協力を賜りますよう、改めてお願いいたします。

職員ルーム



研修会報告

- ★ 3月6日 「準職員研修」
- ★ 3月13日 「第1回すぎのこ会実践発表会」
- ★ 3月22日 「平成30年度 新任職員研修」
- ★ 3月24日 「平成31年度 採用職員採用前研修」
- ★ 4月1日 「平成31年度 辞令交付式」
- ☆ 「人間力」向上に向けた各種研修を実施していきます。

研修会予定



ひのきの杜

2019年の目標は、『 **誇り ～ 献身・誠実・尊重 ～** 』を掲げてスタートしました。ひのきの杜職員は、誇り（プライド）を持って、チームと仲間のために働く献身さ、素直に意見をいう誠実さ、お互いをリスペクトしあう尊重の心で支援にあたるというものです。鹿島アントラーズのジーコTDの“ジーコスピリッツ”は、福祉の仕事にもあてはまると考え、取り入れたものです。

一方通行の支援や介護ではなく、相手への想いや優しさを含み、互いに心を動かし、双方に喜びをもたらす「ケア」を、ひのきの杜では実践していきます。そして、人と人が誠実に向き合い、困難な状況にある利用者との関わりの中で、生きる喜びを感じたり共に成長できる素晴らしい仕事であることも発信していきたいと思います。ひのきの杜に関わる全てのファミリーのために、今年度も“一致団結”して努力してまいります。

施設長 岩崎 好宏



チームのために働く献身さ、素直に意見をいう誠実さ、互いをリスペクトする尊重心

みすぎの郷



2019年度、みすぎの郷では「**喜笑天結(きしょうてんけつ)**」をキャッチコピーとしました。人生を結ぶその時に天寿を全うしたと思えるように、喜び笑ってその人らしい生活の実現を目指す意味が込められています。そのためにご家族・職員などの結びつきを強くし、その瞬間ごとの最高の関わりができるように努力していきます。

同時に、小野寺地区自治会の皆様と協力して地域の防災拠点をはじめ活動場所の提供や施設行事への招待・地域イベントへの積極的な参加をし、地域共生の具現化を目指していきます。また、高齢となられた障害者の方のニーズにも応えるべく、法人内他事業所とも連携をとりながら質の向上を図ってまいります。

施設長 木澤 貴

やまと・花水木

＜やまと＞

・ **児童発達支援**：ほいはび(保育ハビリテーション)の考え方に基づき、保育士と療法士がチームとなって療育を行います。児童一人ひとりにとって必要とする育みを見極め自信をもって成長できるよう支援します。

- ・ **放課後等デイサービス**：家庭、学校に続く第3の居場所として、グループ活動をとおして集団生活に適應できるよう成長発達を支援します。
- ・ **生活介護**：個々の能力に目を向け、生産活動をとおして重度の利用者の社会参加を促進します。
- ・ **通所介護**：共生型生活介護：高齢、障害の壁を超越した環境で互いを認め、支え合える共生社会を促進します。

＜花水木＞

- ・ 各利用者の能力や必要とする環境を整理し、特色を持ったホーム作りを目指します。集団の中の一人ではなく、個人が人生の主役になれるよう伴走型の支援を行います。

所長 布施木 武

愛晃の杜・のあの杜・わたすげ

愛晃の杜は、今年で設立14年目を迎えます。この間、地域の方々から必要とされる福祉サービスを提供しようと職員一丸となって努力してまいりました。

今年の2月、愛晃の杜をはじめ、日光地区の事業所全般を立ち上げ、運営に尽力してこられた村松栄一前所長が永眠されました。突然の訃報に利用者、保護者の皆様にはご心配をおかけしたと思います。そして大黒柱を失った職員にも戸惑いがありましたが、村松氏の想いを引き継ぎ、日光地区においてより良いサービスを絶えず提供することが、村松氏が一番望んでいることであり、今までご指導をくださったことに応えられる唯一の方法だと思っております。引き続き全職員で力を合わせ、日光地区の福祉の発展に貢献してまいりたいと思います。

所長 佐々木 敬之



すぎのこ

平成30年度すぎのこ障がい福祉サービス評価の利用者・保護者の集計結果(前期11名、後期14名)で、その評価項目「環境・体制・整備」については、「廊下、更衣室、トイレ等は暗く感じる」「トイレが少ない」「古い建物で寒いイメージ」等、築後43年のすぎのこへの厳しい評価でした。一方「満足度」では、「どちらともいえない」1を除き全員「はい」をいただきました。利用者支援の好評価と受け止めています。こうした評価を踏まえ、今年度すぎのこは、昨年度実施した耐震診断により非常に高い耐震性を備えている旨の結果を受けて、本館を保持した施設整備計画の樹立を。さらには、栃木市から賃貸借契約により運営している静和ふれあいの郷センター(ふれあいの郷しずわ直売所)においては、利用者と生産者、地域住民と交流のもてる新たなすぎのこの農業と福祉を連携させた就労支援の拠点として事業展開をしていきます。

所長 長谷川 孝範



けやきの家

けやきの家は、岩舟町曲ヶ島の地に根差し、多くの人に支えられながら今年度で19年目になります。4月より新しい風となる新職員1名を加え、職員一丸となって曲ヶ島エリアにおける日中系事業所の役割を果たしていく想いです。そして、地域と繋がっていくことを目指し、新たな取り組みにもチャレンジしていきます。すぐ隣を走る「東武線」のように、たくさんの人たちを乗せて、一人ひとりが望む駅へ、各駅停車で進んでいきたいと思ひます☆



“All for all. Someone for someone.”
(みんなはみんなのために。だれかはだれかのために。)

所長 軽部 慎吾



あすなろ



あすなろの今年のキーワードは「言葉を大切に」です。言葉一つ、使い方や言い方によって、相手に対する印象や伝わり方が違うということを各職員が考え、より利用者の皆さんに伝わりやすい伝え方を身に付けていくことを目標にしています。(特に児童の療育には、しっかりとした言葉使いが必要と考えています。)

また、あすなろは小学1年生から大人の方まで幅広い年齢の方に利用していただいているという利点を活用し、放課後等デイサービス、学校、生活介護との連携と途切れの無い療育・支援の確立と提供ができるよう努力してまいります。

所長 石井 治



みずほの家



みずほの家トロイカ体制

- ① 利用者：作業面・精神面・生活面をトータルに支援する
生活基盤・精神面での安定こそが就職&職場定着の王道。
- ② 職員：ワークライフバランスの見直し
よく働き よく遊べ!! 職員の円満な人格形成をもって、支援内容の充実を図る。
- ③ 地域：生活困窮者就労訓練事業
一般社会での挫折を経験した方も、リセット・カムバックできる社会を願って・・・

所長 落合 恭子

ひまわり



「ひまわり」の花言葉は、情熱、憧れ、あなただけを見つめる、あなたを幸せにする等です。多機能型事業所ひまわりは、花言葉が表しているように、情熱を持って子どもたちの療育にあたり、子どもたち(時にはご家族の)憧れ(ヒーロー)となり、一人ひとりをしっかりと見つめ、みんなが幸せになれるような事業所、そして職員育成を行っていきます。子どもたちの笑顔が保護者の笑顔に繋がり、「ここに来ると安心する」「元気をもらえる」と保護者の方に思ってもらえるよう、療法士と支援員が1つのチームとなり、とびっきりの笑顔で療育を行っていきます。

所長 石井 治



利用者 ルーム

利用者さん紹介

3月に栃木特別支援学校を卒業した、恩田サナさんと萩原珠菜さんが新しく「もくせい」の里生活介護」の仲間入りしました!!
すぐに他の先輩利用者の方とも馴染み、毎日楽しくウォーキングや作業を行っています。これからどうぞよろしくお願いします。

1年生から「ひまわり」を利用している音葉さん。椅子取りゲームでは、音楽にノリノリで座るのも忘れてしまう、おちゃめな一面もあります。いつもかわいい笑顔で、ひまわりのみんなを元気にしてくれています。



恩田サナさん



萩原珠菜さん



大澤音葉さん

～富山県高岡市から「けやきの家」へ風船メッセージ～

4月29日(月)の夕方、空から素敵な贈り物が舞い降り、風船には『高岡といで菜の花フェスティバル』行事の中で飛ばしたようで、『戸出保育園』の園児(かいと君)からの贈り物でした。ビックリ(@_@)!? 来年の今頃は、けやきの家の周りは黄色い花に囲まれていることでしょう(*^_^*)。

